

「慰安婦」問題での橋下徹「日本維新の会」共同代表の
発言への謝罪と撤回を求める決議（案）

「日本維新の会」の橋下徹共同代表は5月13日、日本軍の『「慰安婦」制度は必要だった』と発言しました。その上、沖縄県に駐留する在日米軍司令官に対して「風俗業」活用を勧めたことも自ら明らかにしました。

これに対して、全国多くの個人・市民団体などが抗議の声をあげ、沖縄でも25女性団体が「女性のみならず男性、すべての人間の尊厳を傷つけるもの」と抗議声明文を発表しました。

この発言は、公人のものとは思えない異常なもので、橋下氏の政党代表としての資格はもちろん、人間としての姿勢が問われているのは当然です。

海外からも韓国をはじめ、中国、アメリカなど各国から非難の声が上がっています。アメリカ国務省の報道官は「常軌を逸しており侮辱的」と異例の調子で非難しました。

国内外の抗議や非難にもかかわらず、橋下氏は「必要だった」との発言を撤回していません。

もともと日本軍「慰安婦」問題は1993年の「河野洋平官房長官談話」で政府や軍部の「関与」を認めています。国連などの報告では「戦時性奴隷」と呼ぶのが常識になりつつあるもので、女性の人権を徹底的に破壊し、人間の尊厳そのものを冒瀆する国際的な戦争犯罪です。

よって、嘉麻市議会は、橋下徹氏に対し「慰安婦」問題での発言に対し撤回と謝罪を要求する。

以上、決議する。

2013年6月25日

嘉麻市議会